

iD14 mkII

10in | 6out [USB3.0対応]
オーディオインターフェイス

Manual v1.1

AUDIENT

audient iD14mkII

Audient ASP8024 Heritage Editionコンソールのマイク・プリアンプ、独立チャンネルの JFET D.I、最高品位のAD/DAコンバーター、Audient独自のScroll Control、iD ファミリーの『音質基準』をそのままに、バス・パワードで実現。

「すべてのクリエイター、シンガーソングライターが、最初の段階から【リリース・クオリティ】でどこでも録音を始められること。それが iD14 をデザインするに至ったバックグラウンドでした。」 Audient テクニカル・ディレクター Tom Waterman氏

iD14mkIIは、音楽やサウンドメイキングに携わるクリエイターが、必要とする全ての機能をコンパクトかつ、エレガントにまとめた、完全プロ仕様の『Creator's Box』です。

同梱物:

- iD14mkII本体
- USB-C to USB-C cable
- Quick Start Guide

主な特長:

- 2 × Audient コンソールマイク・プリアンプ
- 高性能AD/DA コンバーター
- 1 × JFETインストルメント入力
- 4 × ライン出力
- デュアルヘッドフォン出力
- 拡張用 ADAT 入力
- 超ローレイテンシーのソフトウェアミキサー
- 進化したモニターコントロール
- iDスクロールコントロール
- ファンタム電源
- USB 3.0対応
- フルメタルシャーシ
- Freeソフトウェア&プラグイン

ソフトウェア・ダウンロードURL

<https://audient.com/products/audio-interfaces/id14/downloads/>

日本語マニュアル・ダウンロードURL

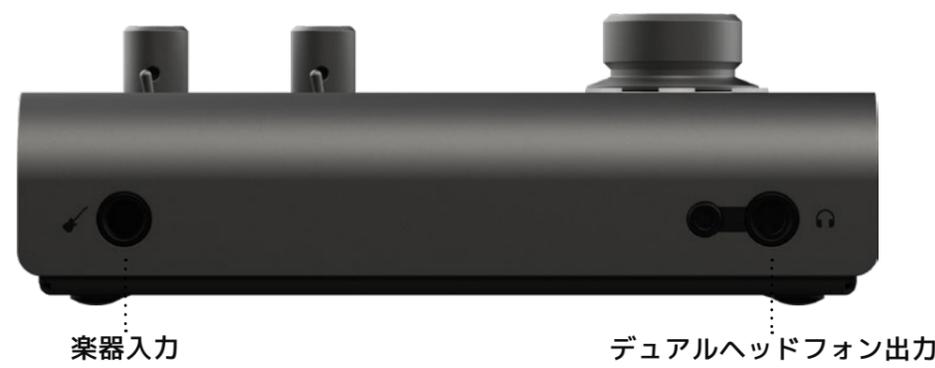
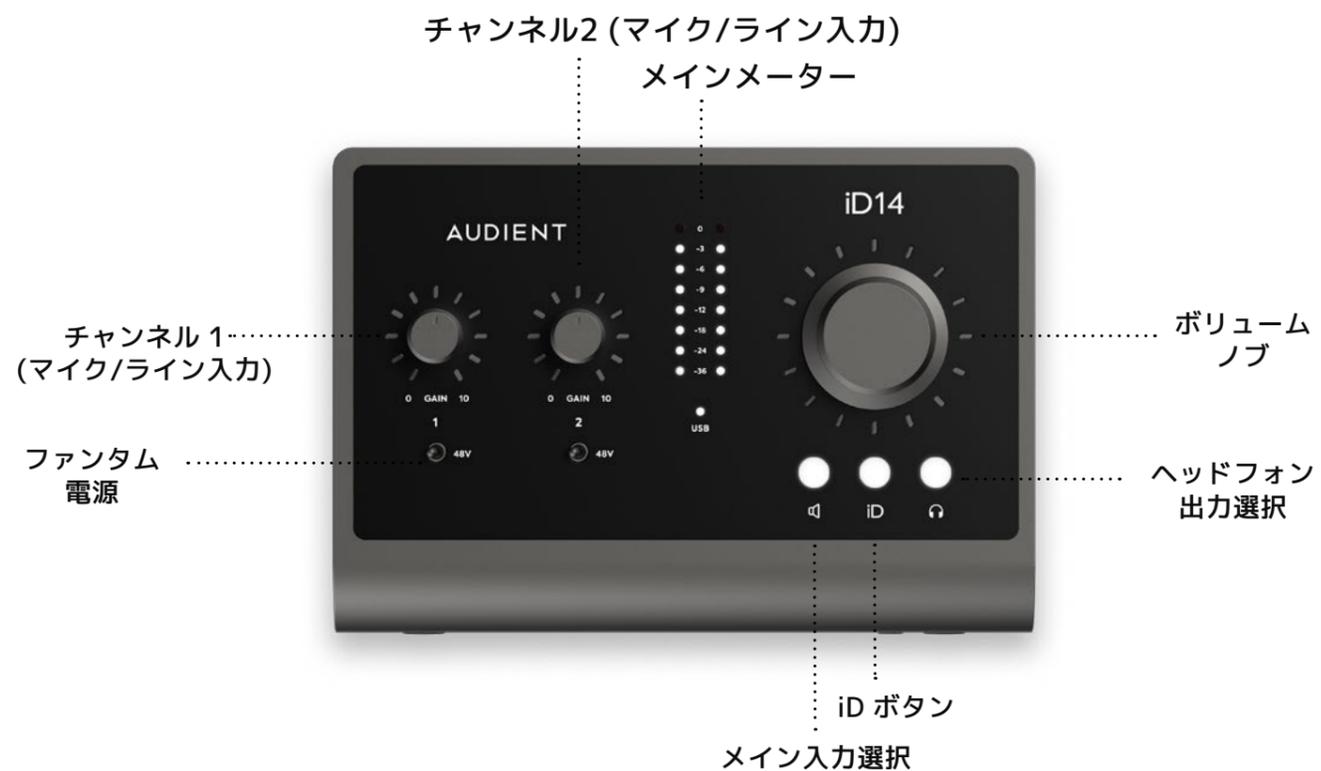
<http://allaccess.co.jp/audient/id14mk2/>



目次

iD14mkIIの概要	4	DAWの設定	35
		Pro Tools の設定	36
		Logic Pro の設定	37
		Cubase/Nuendo の設定	38
		Ableton Live の設定	39
安全にご使用頂くための注意	6	トラブルシューティング & FAQ	40
インストール方法	8	製品仕様	43
Mac の場合	9	品質保証に関して	44
Windows の場合	11	サイズ	46
ミキサーアプリとファームウェアアップデート	13		
ハードウェアについて	14		
マイクプリアンプ&ライン入力	15		
楽器入力	16		
ヘッドフォン出力	16		
デジタル入力	17		
スピーカー出力	17		
モニターコントロール	18		
メーター	19		
Kensington ロック	19		
iD Mixerアプリケーション	20		
入力チャンネル - チャンネルタイプ	21		
チャンネル仕様	23		
マスターセクション	24		
システムパネル	27		
トークバックソース	30		
ミキサープリセットのセーブ&ローディング	31		
メニュー/タスク・バー・アイコン	32		
キーボードショートカット	34		

iD14 mkIIの概要



安全にご使用頂くための注意

付属のUSBケーブルから機器に給電する前に、マニュアル中のインストラクションや注意点をよくお読みください。

本機は高電圧で動作はしませんが、電気ショックや火災が起きないように安全な使用法に忠実に従ってください。

故障と思われるような症状が発生しても、本体を開けないでください。
その際はまずaudientのサポート: audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。

audient@allaccess.co.jp

- 
- 01 マニュアルをよく読んでください。
 - 02 マニュアルを保管しましょう。
 - 03 『注意や警告』を守りましょう。
 - 04 インストラクションには従ってください。
 - 05 水の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
 - 06 クリーニングは乾いた布だけ使用してください。
 - 07 ヒーター、ストーブやアンプなど高温を発する場所や機材の上で使用しないでください。
 - 08 本機に接続されているケーブル類にご注意ください。
 - 09 本機と使用するアクセサリ等は、メーカーが認可したものを使用してください。
 - 10 近くで雷が発生していたり、長い期間本機を使用しない時は、コンピューターの電源をお切りください。本機とコンピューターとの接続ケーブルも外してください。
 - 11 水分がかかったり、故障だと思われる時に本機を開けないでください。
製品の修理は認可されたサービス機関でのみ修理可能です。
その際はまずサポート: audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。

WARNING

感電などの事故が発生しないように、水の近くや湿気の多い場所では本機を使用しないでください。

インストール方法

MacOS の場合

動作環境

OS:Mac OS10.11.6 (El Capitan) 以降

CPU : Intel CPU又はApple Silicon CPU

メモリ : 1GB RAM 以上

セットアップ

1. 最新のiD Mixerアプリを、以下のリンクからダウンロード。

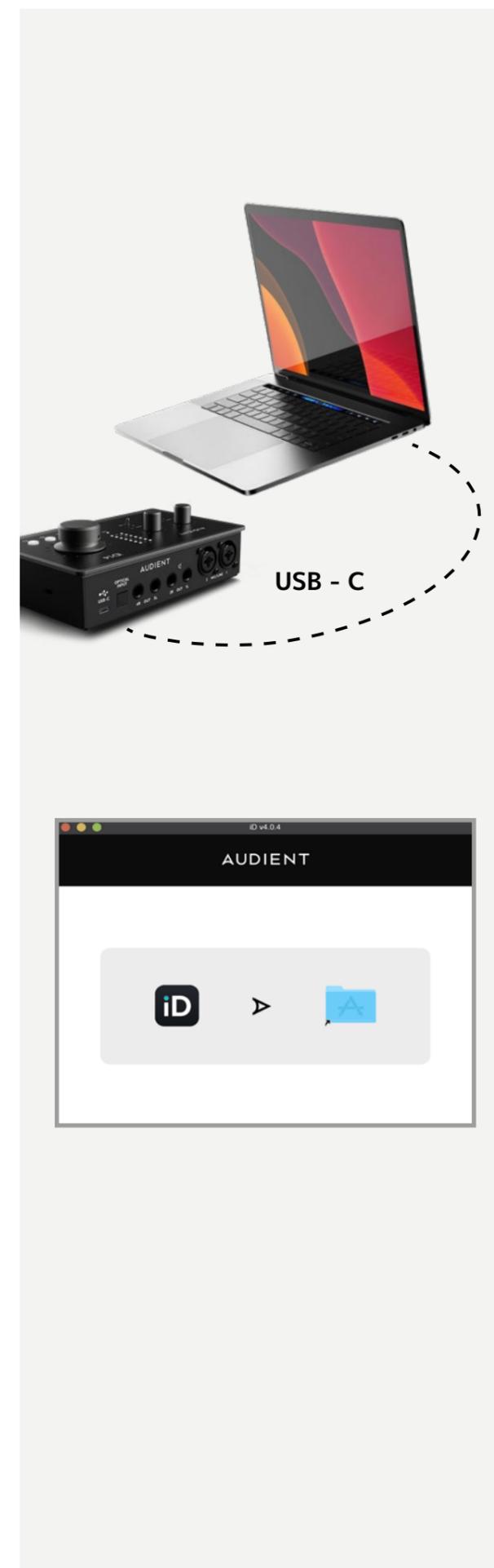
<http://audient.com/products/downloads/iD14>

※ 製品一覧から iD14 を選択しDownloadのタブをクリックします。

ダウンロードしたアプリをフォルダーにインストールして下さい。

2. iD14 mkIIに接続

付属のUSB-CケーブルでiD14mkIIをMacのUSBポートに接続してください。



MacOS の場合（続き）

3. 接続の確認

接続が確立されるとホワイトUSBマークのLEDが点灯します。USB LED が点灯しない場合は接続を確認してください。



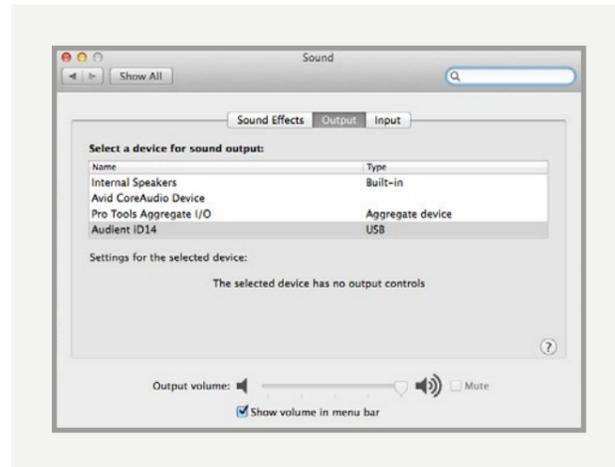
解決できない場合はALL ACCESSサポートまでご連絡ください。

4. 接続の再確認

iD14mkIIとコンピューターの接続が確立されることを再確認して下さい。

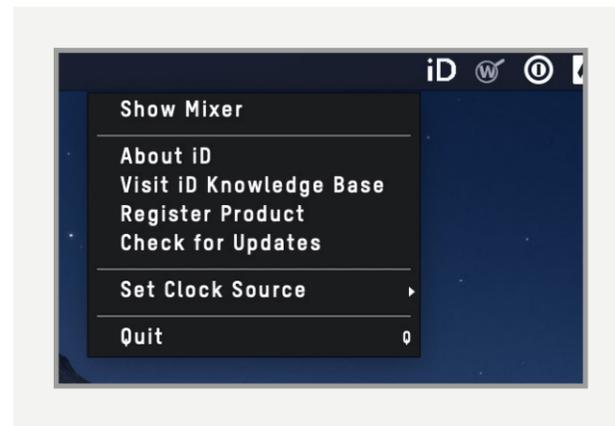
「システム環境設定>サウンド>出力」から「iD14」をオーディオデバイスに選択して下さい。

同様にお使いになるDAWソフトウェアでも「iD14」を選択して下さい。DAWに関する設定は後のセクションをご覧ください。



5. iD Mixerを開く

iDソフトウェアを起動して、メニューバーで「ミキサーを開く」を選びます。



Windowsの場合

動作環境

OS:Windows 7 以降 (32 or 64 bit)

CPU : Intel Core 2 @ 1.6 GHzまたは同等のAMD CPU

メモリ : 1 GB RAM 以上

セットアップ

1. 最新のiD Windows Driverを、以下のリンクからダウンロード

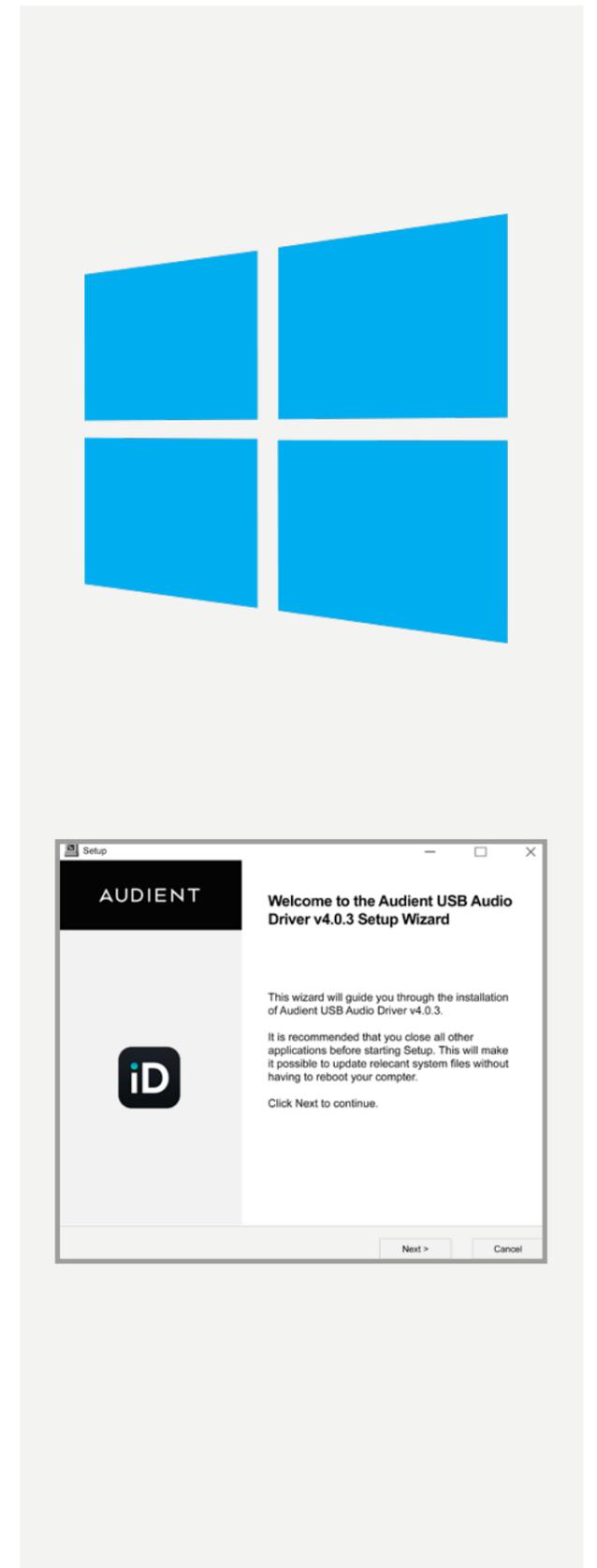
<http://audient.com/products/downloads/iD14>

※ 製品一覧からWindows driversを選択しDownloadをクリック。

ダウンロードしたアプリをフォルダーにインストールして下さい。

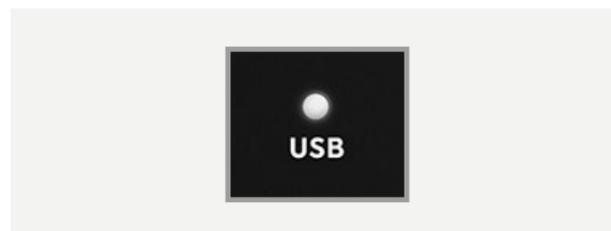
2. iD14 mkIIに接続

付属のUSB-CケーブルでiD14mkIIをPCのUSBポートに接続して下さい。



Windowsの場合(続き)

4. 接続の確認



接続が確立されるとホワイトUSBマークのLEDが点灯します。USB LED が点灯しない場合は接続を確認してください。

「iD14」をデフォルトオーディオデバイスに指定し、「既定値に設定」を選びます。

設定 > コントロールパネル > ハードウェアとサウンド > サウンド の順に行います。

*Windows 10の場合は設定からシステム>サウンドで設定できます。

使用するDAW内でも、「iD14」がオーディオデバイスとして選ばれていることを確認してください。このセッティングは、通常オーディオセッティング、又はプリファレンスメニューで行えます。異なるDAWの設定に関しては、後のセクションをご覧ください。解決できない場合はALL ACCESSサポートまでご連絡ください。

5. iD Mixerを開く

iDアプリがインストールされると、iDアイコンがWindows システムトレイに現れます。アイコンを右クリックすると、サンプルレート、バッファサイズ、レイテンシーセッティングを変更することができます。



- ・iD14 Mixerウィンドウをダブルクリックで開きます。
- ・右クリックでサンプルレートとバッファサイズの変更を行います。

ミキシングにはバッファサイズを256に設定すると最適でしょう。トラッキングには低いバッファサイズを試してみましょう。お使いのコンピューターの処理能力や、プラグインやバーチャルインストルメント、使用チャンネル数によって、適正バッファサイズは異なります。

ミキサーアプリとファームウェアアップデート

iD Mixerアプリケーションを起動する

iD Mixerアプリケーションは、以下のフォルダーにあります。

【Macintoshの場合】

Macintosh HD > アプリケーション > iD

【Windowsの場合】

スタート > すべてのプログラム > Audient > iD

iD Mixerは、iD14mkIIが接続されている時のみ使用可能です。右クリックするとiD14mkIIの終了、レイテンシーやASIOのバッファ設定を行う事ができます。



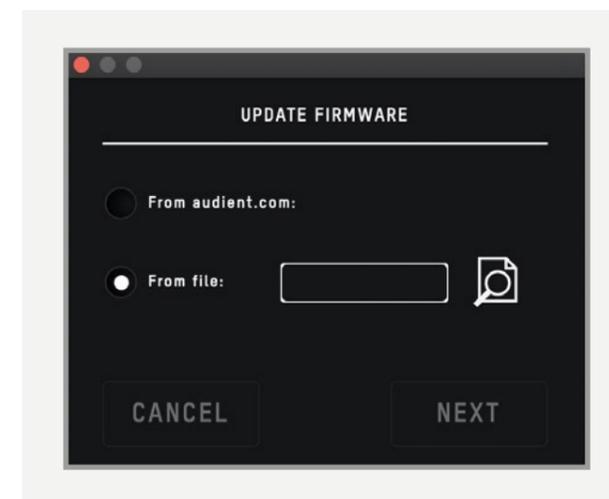
ファームウェア・アップデートの確認

ファームウェアのアップデート方法は、以下の2通りあります。

- ・メニューの「Fromfile」から、ディスク上に保存された最新ファームウェアのファイルを使用する。
- ・「iD Mixer」ソフトウェア上から更新情報を確認し直接アップデートする。

ファームウェアのアップデート

「iD Mixer」上で更新情報を確認すると、最新バージョンが図のように表示されます。NEXTをクリックするとアップデートが始まります。



続く画面でUPDATEをクリックし、アップデートが完了したらウィンドウを閉じてください。



ハードウェアについて

マイクプリアンプ&ライン入力

iD14mkIIのアナログ入力には、フラッグシップ・コンソール直系のマイク・プリアンプを採用しました。ディスクリートクラスA回路を採用し、低ノイズで極めて歪みの少ないサウンドを生み出します。その音質はスピード感に溢れ、オープンで正確なディティールを再現できることが特長です。

入力端子にはマイク/ラインのどちらにも対応できるAmphenol™製のXLR/TRS コンボ・ジャックを採用しました。ライン信号もパッドされて(信号レベルを下げて)マイク・プリアンプ回路を経由します。



[マイクプリアンプの仕様]

- ・ 56dB のクリーン・ゲイン
 - ・ 8V (±4V) ファンタム電源 (チャンネル毎/ 10mA)
 - ・ > 2.8k Ω 入力インピーダンス
- マイクの種類に関わらず、パンチのあるサウンドが得られる インピーダンスに設定しました。
- ・ 位相反転スイッチと10dBゲインブーストはiD Mixerアプリケーション上で設定可能です。



楽器入力

「D.I.」入力端子は、JFET採用のクラスAディスクリート・デザイン楽器用入力です。このDI入力には、エレキギター、エレアコやシンセサイザーが入力できます。このJFET回路はクラシックな真空管アンプの入力部分をベースにデザインされており、リッチなハーモニクスを含んだサウンドを生み出します。

このTS (アンバランス・チップ、スリーブ) ジャックに接続すると、チャンネル1が楽器入力になります。この入力はマイク/ライン入力よりも優先され、出力されます。位相反転スイッチはマイクを併用する時に、10dBブーストは信号レベルが小さい時に使用します。



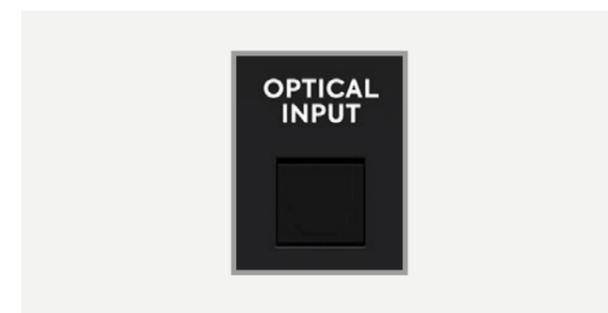
ヘッドフォン出力

前面に設けられたヘッドフォン出力端子は、接続するヘッドフォンインピーダンスの影響を受けにくい、ディスクリート高電流型アンプを搭載しています。標準プラグとステレオミニジャックの両方を備えており、同信号を2基のヘッドフォンへ同時駆動することが可能です。又、スピーカーとの同時モニタリング、アーティストヘッドフォンミックスも可能です。



デジタル入力

iD14mkIIには、オプティカルのデジタル入力が搭載されており、ADAT(8ch)又はSPDIF(2ch) どちらにでも使用可能です。その切替えは iD Mixerアプリケーションから行います。



両フォーマットとも最大サンプルレートは96kHzです。ADAT入力は、Audient ASP800マイクプリなどから44.1/48kHz以上 (88.2kHz&96kHz) で使用する場合は、使用可能なチャンネル数が4チャンネルに限定されます。

スピーカー出力

iD14mkIIの背面パネルには、バランスのTRSジャックコネクターステレオスピーカー出力を2つ備えています。フラッグシップのコンソールであるASP8024と同等の出力を採用し、高品質なDACから、スピーカーにクリーンなサウンドを出力でき、解像度の高いモニタリングが可能です。



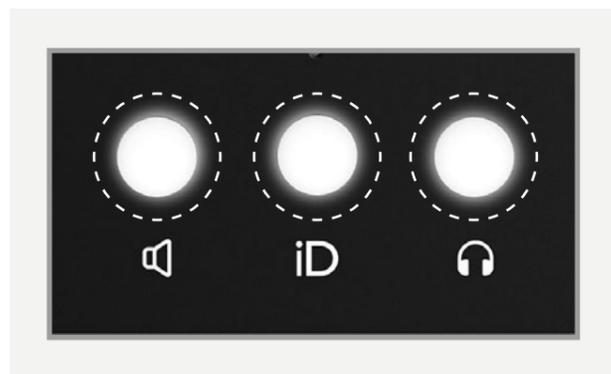
iD Mixerを使えば、単にスピーカーからのモニターだけでなく、複数のミュージシャンへそれぞれ独立したヘッドフォンからモニタリングさせることも可能です。

モニターコントロール

iD14mkIIはAudientの大型コンソールと同等のモニタリング・コントロール機能を備えています。各モニターの音量は、カスタムアルミ製エンコーダーとエンコーダーボタンで操作します。

これにより、ヘッドフォン出力とスピーカー出力のバランスを個別に調整し、マッチングさせることが可能です。

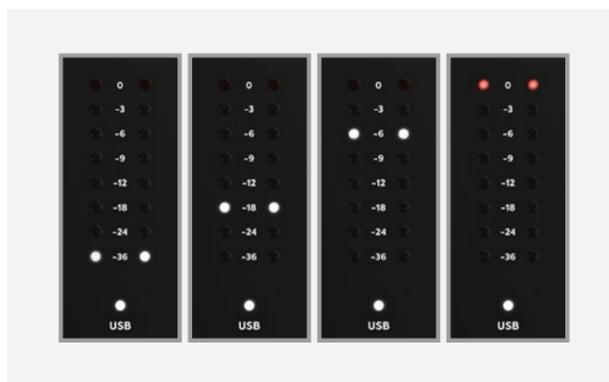
3つのエンコーダーボタンはエンコーダーのモード選択用に用意されています。選択されたボタンが点灯します。



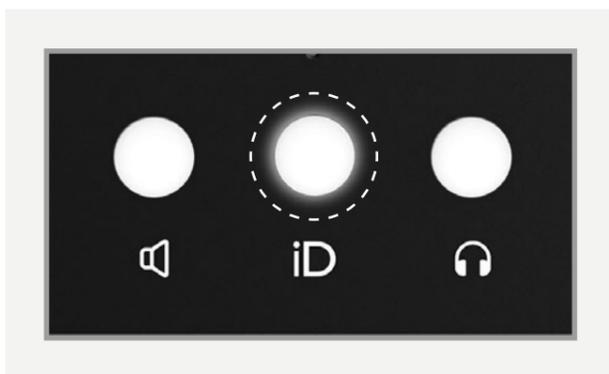
スピーカー&ヘッドフォンボタン

スピーカーボタン(右)、ヘッドフォンボタン(左)を選択すると、それぞれの出力レベルが調整できます。

エンコーダーを押すとそれぞれの出力がミュートされます。ミュート状態の時には、エンコーダーボタンが点滅します。



iDボタン

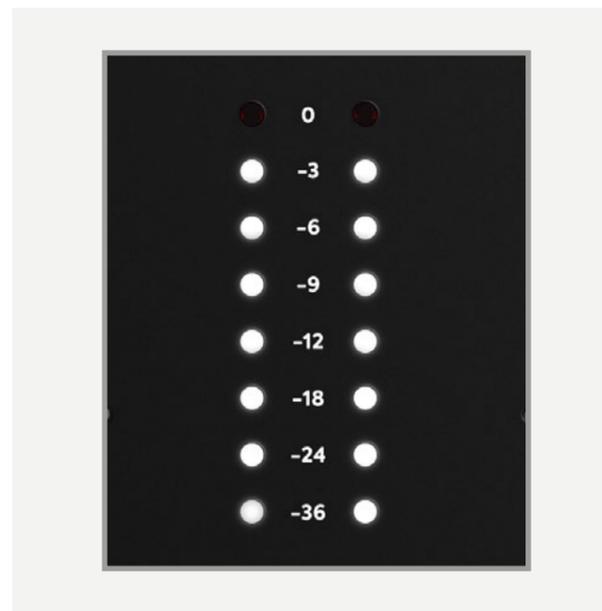


iDボタンは、iD14mkIIの特筆すべき機能の一つ『ScrollControlモード』のアサインが可能です。エンコーダーにスクロール・ホイール機能をアサインして、DAWのオートメーション等、様々な機能へのアクセスかを可能にしてくれます。

また、ファンクション (トークバックや位相反転等) のアサインボタンとしても使用できます。iDボタンにこれらのファンクションがアサインされている状態では、エンコーダーは直前に選択された音量をコントロールします。iDボタンのアサインはiDアプリで行います。

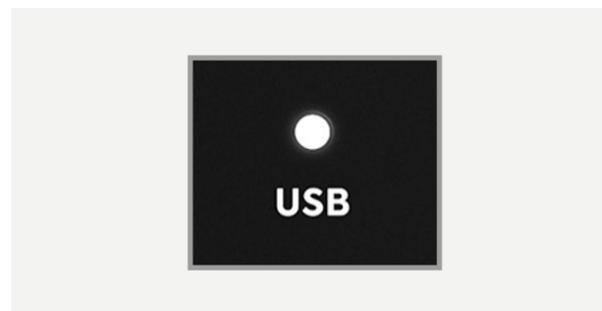
メーター

8段階のLEDメーターが搭載されています。このピークメーターは、iD Mixerアプリのプレイバックレベルを表示します。この場合、入力レベルにはDAWのメーターの使用をお勧めします。



ステータス LED

このLEDは、iD14mkIIとコンピューターのUSB経由の接続状態を表示します。安定した接続時には明るく点灯します。



Kensington ロック

iD14mkIIの側面にはケンジントン・ロック取付け用の穴があります。学校や設備で使用する際の盗難防止に活用してください。

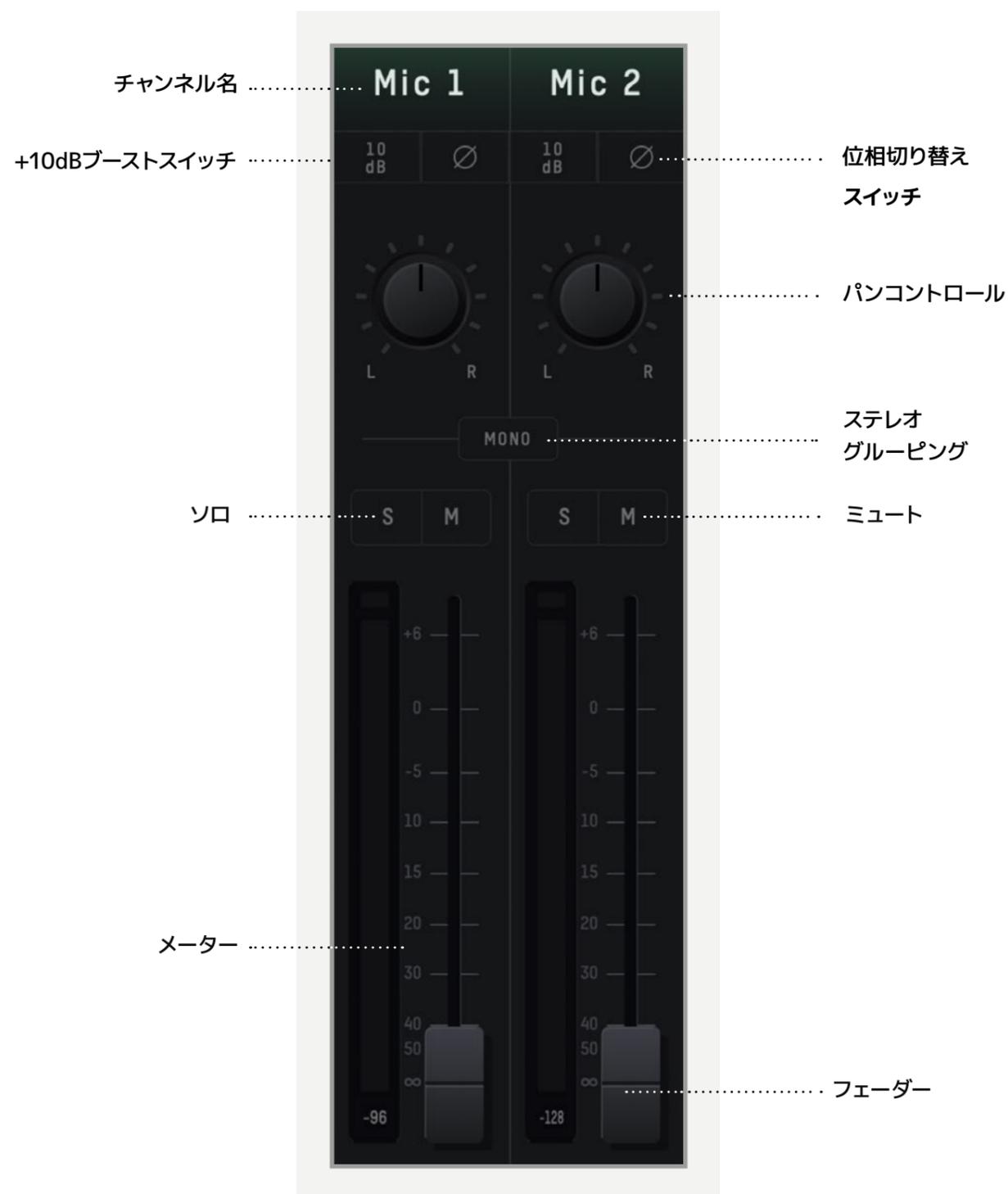


iD Mixer アプリケーション

入力チャンネル - チャンネルタイプ

チャンネル毎に3タイプの入力を選択できます。

- マイク入力:
2つのアナログ入力
- デジタル入力:
オプティカル入力からの信号。デジタル入力信号タイプ (SPDIF、ADAT) とサンプルレートにより、アプリに表示されます。
- Dawリターン:
DAWからのプレイバック信号です。本機には6つのリターン信号があり、Cueミックスやアウトボードへのセンドに設定できます。



チャンネル仕様

チャンネル名

ダブルクリックで、キック、スネアのように命名でき、整理もできて便利です。

位相切り替えスイッチ

信号の位相が反転できるスイッチです。ギターアンプのリアにマイクを立てたり、スネアの反対面のマイキングの位相切り替えに使えます。

パンコントロール

メインモニターやCueミックスのL/R設定を行うパンコントロールです。

ステレオグルーピング

隣り合った2つのチャンネルをステレオにグルーピングして、両チャンネルを1本のフェーダーでコントロールします。ステレオグルーピングされると、自動的に信号はL/Rにパンニングされます。

+10dBブーストスイッチ

このスイッチを押すと、低い録音ソース信号が+10dB上がります。このレベルの変化はDAWへも影響します。

ソロ

ソロボタンは他のチャンネル信号をミュートします。

ミュート

ミュートボタンはそのチャンネル信号をミュートします。

フェーダー

選択されているミックスへの信号レベルを+6dB～オフの範囲で調整します。

チャンネルメーター

このメーターは信号レベルをdBFS (フルスケールレベル) で表示します。0dBFSを超えるピーク信号はレッドに表示されます。このピーク表示はクリックして消すことができます。又、Alt + Clickでもピーク表示を消すことができます。

マスターセクション



ミックスの選択

変更を行うミックスを選びます。すると、そのミックスの追加コントロールが現れます。

Cueミックスの名前

Cueミックスをダブルクリックすると、その名前が表示され変更が可能になります。例えば、4人のバンドメンバーそれぞれに異なるCueミックスを作るのであれば、Drummer、Guitarist、Bassist...と命名できます。

ミックスソロ

このソロボタンで各Cueミックスのモニターが可能 です。

ミックスレベル

出力されているCueミックスのレベルがコントロール できます。

ミックスメーター

選択されているミックスの信号レベル表示です。

クロノメーター

クロノメーターは現信号レベルのみでなく、数秒前か からの信号レベル変化を読み取ることができます。トラックダウンの時のトランジェント信号のモニター や、Cueミックスのレベル変化のモニタリングに有 効です。

チャンネルビュー

これら3つのボタンはチャンネルのタイプを選択し ます。

例：デジタル入力を使用していない時は、OPTコントロールの クリックしてオプティカルチャンネルを隠すことも可能です。

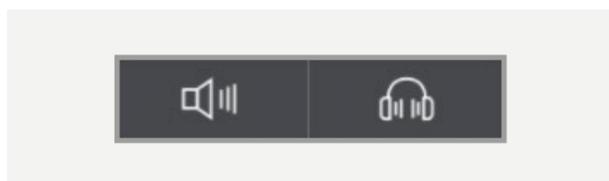
モニターコントロール

本機には、モニターコントロール機能が6種類のボタンに分かれています。各機能については下記をご覧ください。

- TB (トークバック)**
 トークバックボタンでトークバックのオン/オフが可能です。詳しいセッティングは『システムパネル』のセクションをご覧ください。
- ø (フェーズスイッチ)**
 ステレオ信号の片側の位相を反転します。この機能はモノスイッチと併用して、センター定位の信号を取り除きたい時に使います。ミックスに埋もれた信号をモニターするのに便利な機能です。
- モノ**
 このスイッチをオンにするとステレオ出力がモノラルになります。出力がモノ再生される時のチェックが簡単に行えます。
- オルタネート**
 モニターパスを切り替えて、異なるモニターセットで確認する時に用います。どの出力を'ALT'モニターして選択するかは、システムパネル内で行います。
- DIM**
 プリセットしたレベルまで出力を即座に下げることができるスイッチです。セッション中にコミュニケーションをとる場合に役立つ機能です。

モニター&ヘッドフォンミュート

モニター出力またはヘッドフォン出力をミュートする機能です。アイコンがミュート状態を表示します。



システムパネル

デジタル入力フォーマット

クロックソース選択

モノモード

Dimレベル

Alt スピーカーレベル



出カルーティングセクション

ルーティングマトリクス

トークバックソース

インプットソース



トークバックデバイス

デジタル入力フォーマット

ADATまたはS/PDIFの使用を選択します。

クロックソース

クロックソースは、内部クロック（本機）またはオプティカルが選択できます。詳しくはクロックセクションをご覧ください。

外部Clock Sourceを使用している時は、セレクターの横の表示はクロックのステータスを表示します。

- レッド - クロック信号が認識できていない状態です。
- イエロー - クロック信号は認識していますが、サンプルレートが異なる状態です
- グリーン - 正常に動作しており、iD14がクロックシンク（同期）している状態です。
-

外部クロックと同期して正常に動作してほしい場合は、表示がグリーンであることを確認してください。グリーン表示されない場合は、本機は同期まで内部クロックで動作します。

モノモード

このオプションコントロールでモノが選択されると、全出力へモノ信号が送られます。

Dimレベル

Dim機能がオンになった時に下げるレベル値を決定するコントロールです。

Alt スピーカーレベル

Alt スピーカーモードで切り替えた時、レベル設定のアップ/ダウンを決めるコントロールです。接続している異なるスピーカーブランド間のバランス調整です。

出力ルーティングセクション

アナログ出力、デジタル出力1、トークバックチャンネルのルーティングマトリクスを開きます。

iDモード

スクロールコントロール又はモニター機能の一つを使うかを決定します。

ルーティングマトリクス

オーディオソースをどの出力にルーティングするかを以下のオプションから決めます。

- Main Mix/メインミックス- iD Mixerのマスターミックスから信号を取ります。これはスタンダードなプレイバックの設定です。
- Alt/オルタネート - iD Mixerのマスターミックスから信号を取り、Altスピーカーで再生します。
- Cue A & B - iD Mixerで作った異なる2つのCueミックスが選べます。ハードウェアのボリュームコントロールはこれらのミックスには動作しません。メインミキサーウィンドーで選ばれたCueミックスのみに動作します。

- DAW THRU - DAWに現れた通りの信号が出力へルーティングされます。例えば、アナログアウト1+2がダイレクトにDAW THRUにセットされると、DAWは出力1+2をアナログアウト1+2へ出力します。DAW THRUでは、ボリュームコントロールはバイパスされ、信号はフルスケールで出力されます。これが直接モニタースピーカーへ出力されると、非常に大きな信号になります。この場合は、ヘッドフォンのみボリュームコントロールが効きます。



トークバックソース

トークバックソースは、iD14のインターナル入力、又はホストコンピューターに接続されているデバイス（内臓マイク又は接続されているUSBマイク）からの信号です。

インプットをトークバックチャンネルとして選ぶと、iDMixer内のチャンネルもTBボタンがセンターにあるトークバックチャンネルに変更されます。

外部デバイスを使っている場合は、トークバック信号はDAW6チャンネルに現れます。フェーダーは、メインミックスではなく、Cueミックスのチャンネルのみに現れます。

トークバックデバイス

外部デバイスが選ばれると、接続されているデバイスが使えるようになります。



ミキサープリセットのセーブ & ローディング

iD Mixerの設定は即座に保存できます。セッション中に異なるプリセットのセーブ&ローディングが可能です。

ミキサープリセットは以下の2つの方法でセーブ&ローディングが可能です。

- ファイルメニューでセーブ or オープンを選びます。
- キーボードのショートカットを使います
セーブ: Mac - Cmd + S, Windows - Ctrl + S
ロード: Mac - Cmd + O, Windows - Ctrl + O

プリセットのセーブ

セーブしたいミキサー設定が決まったら、プリセットとしてセーブします。File > Saveで簡単にセーブできます。ミキサーウィンドーが表示されたら、プリセット名を入力しSAVE (セーブ) を押します。



プリセットファイルは書き出しが可能ですから、友達にファイルを転送できます。さらに、DAWセッションファイルを含めれば、後日プロジェクトの再現が容易に準備できます。SaveスクリーンからExport Mixer Configurationを選択すれば完了します。

ミキサーファイルのロード

セーブしたプリセットのロードは、ロードスクリーンでFile > Openを選択します。

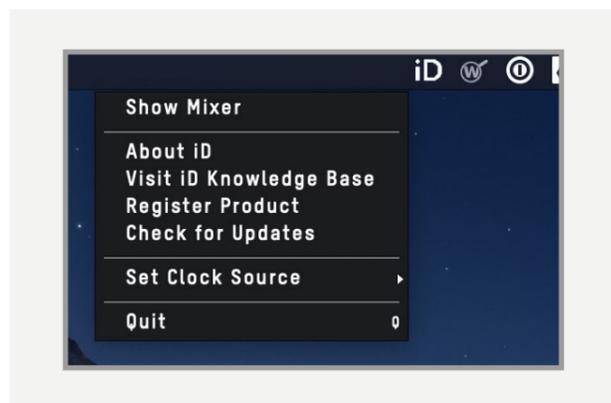


以前に保存した設定がリストに現れます。ロードしたい設定をクリックし、ロードします。又、ミキサー設定をLoad From Fileから直接選ぶこともできます。

メニュー/タスク・バー・アイコン

MacOS

スクリーン右上のメニューバーにiDアイコンが表示されます。ここからiD14のいろいろな機能にアクセスできます。



Quit

iD Mixerアプリを終了することができます。

About iD

iD Mixerアプリの現バージョンを表示します。

iDナレッジベース

ヘルプ機能やFAQが用意されたAudient Helpdeskを開くことができます。

Set Clock Source

内部とオプティカル入力へのクロックソースの確認&設定が行えます。

Check for Updates

Audientアップデートサーバーを確認し、ファームウェアのアップデートをチェックできます。

Windows

MacOSメニューバーアイコンと同じオプションとWindowsのスペシャルオプションが、Windowsのタスクバーにあります。



Set Sample Rate

iD14mkIIのサンプルレートが、44.1、48、88.2、96kHzから選べます。

Set ASIO Buffer Size

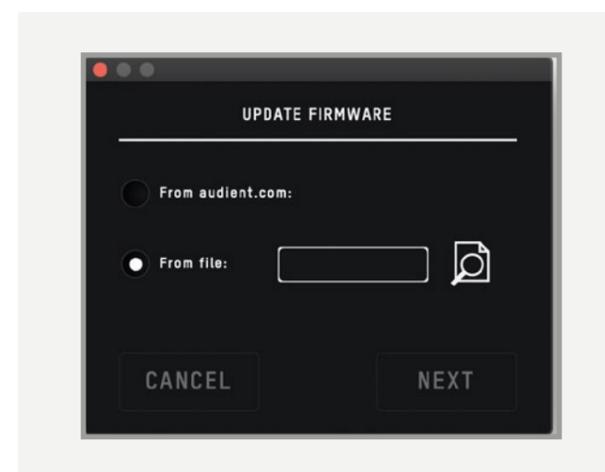
バッファサイズを16~4096サンプルから設定できます。高い値の設定はコンピューターのプロセッシング負荷を下げますが、その分レイテンシーが増加します。

ファームウェアのアップデート

バグ修正、機能向上、新機能の追加等を行うファームウェアのアップデートを行います。

時々、Check for Updatesでアップデートを確認してください。

同様にiD Mixerアプリケーションもアップデートサーバーを確認しましょう。新しいリリースがあったら、最新版にアップデートすることをお勧めします。



このウィンドウのNEXTをクリックすると、iD14mkIIからのプレイバックが止まります。Updateをクリックするとアップデートが始まります。アップデート中、本機は何度かオフになります。

Keyboard Shortcuts

キーボードショートカット

以下がiD Mixerアプリのショートカットテーブルです。

Location	Mac	Windows	Description
Faders	Alt + Click	Alt + Click	フェーダーをユニティーゲインへリセット (0dB)
Pans	Alt + Click	Alt + Click	パンポットをセンターへリセット
Solos	Cmd + Click	Ctrl + Click	全てのソロチャンネルをクリア ソロ設定されていないチャンネルをクリックすると、全てのソロが無効になります。
Meters	Alt + Click	Alt + Click	ピークホールド表示をクリア
System Panel	Cmd + S	Ctrl + S	ミキサー設定をセーブ
	Cmd + O	Ctrl + O	ミキサー設定をロード
View Modes	Cmd + 1	Ctrl + 1	Mic/Line入力を表示
	Cmd + 2	Ctrl + 2	Optical (Digital) 入力を表示
	Cmd + 3	Ctrl + 3	DAWミックス入力を表示
	Cmd + 4	Ctrl + 4	System/パネルを表示

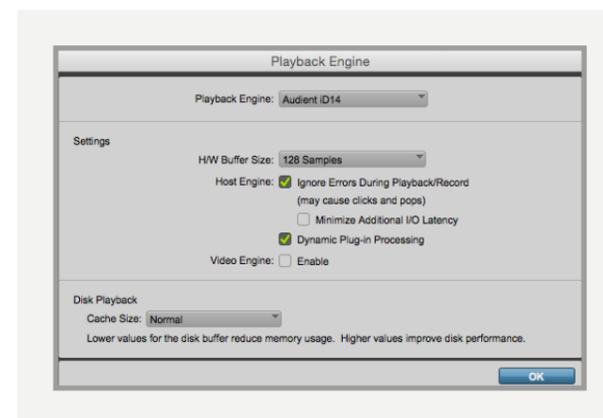


Pro Tools の設定

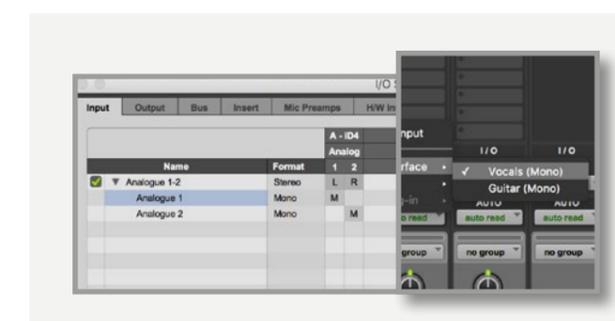
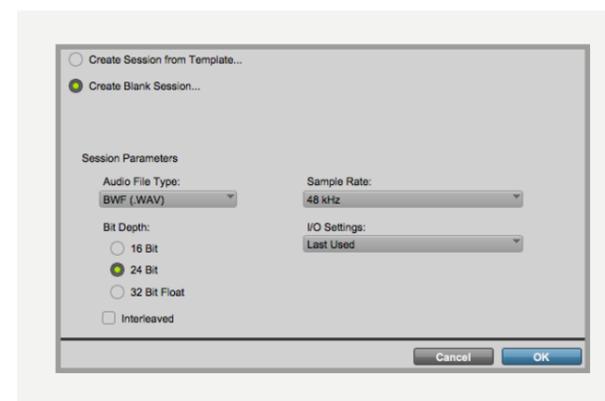
Pro Tools と使用する場合

Windowsを使用している方は、インストールセクション (オーディオデバイスとしての設定) の設定を確認してください。インストールが完了したら、ProToolsを起動してサンプルレートの設定を確認してください。外部クロックを使用する場合、両方のサンプルレートを同一値に設定します。

Windows版をご使用の場合は、プロジェクトを開く前に、必ずiDアイコンよりレイテンシーとバッファサイズの設定を忘れないでください。これらの設定がProTools起動時に反映されます。



I/Oセットアップ: セットアップからI/Oへ進みます。上記設定画面で、入力と出力の設定を行います。iD14の2入力/2出力が正しくルーティングされていることを確認してください。



※その他の設定に関しては、ProToolsの取扱説明書をご参照ください。

レイバックエンジン

Setup > Playback Engineで、プレイバックエンジンの設定に進みます。



最新アプリをチェックしてください。告知なしにショートカットが追加される場合があります。

audient.com/products/iD14

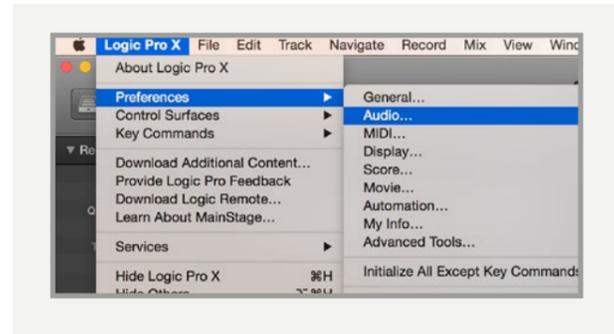


Logic Proの設定

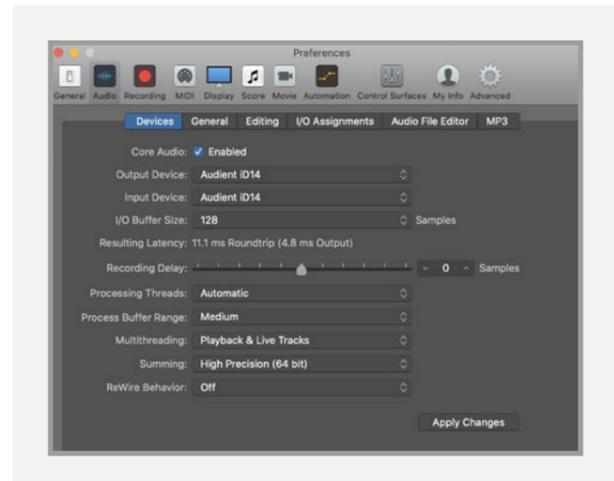
Logic Proと使用する場合

MacにiD14mkIIを接続し、Logic Proを立ち上げます。この際、iD14mkIIが入出力デバイス(プレイバック用デバイス)に選ばれていることを確認してください。インストールが完了したら、下記の設定画面を開いてください。

Logic Pro > Preferences > Audio



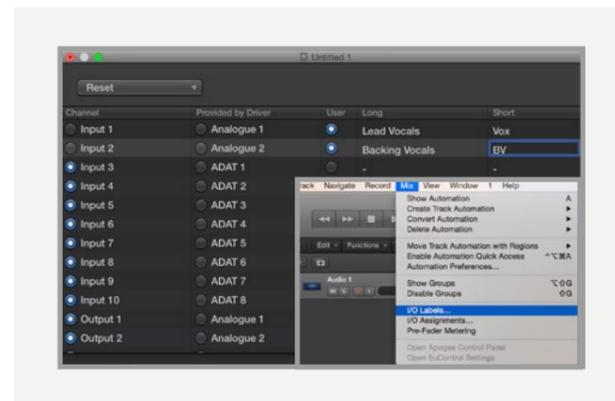
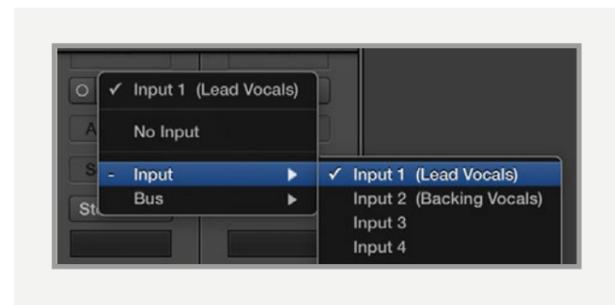
iD14mkIIがプレイバック用デバイスとしての設定を確認したら、適切なバッファサイズを設定します。Monitor Mixを入力モニターに使用している場合は、バッファサイズを比較的高く設定することをお勧めします。又、「オーバーロード」警告やノイズ、サウンドの歪みなどが発生した場合は、バッファサイズを大きく設定してください。



すでに、iD Mixerをレコーディング時の入力モニターに使用している場合は、位相シフトによるショートディレイが聴こえてないように、Logicのソフトウェアモニタリングをオフにしてください。

入出力のアサイン

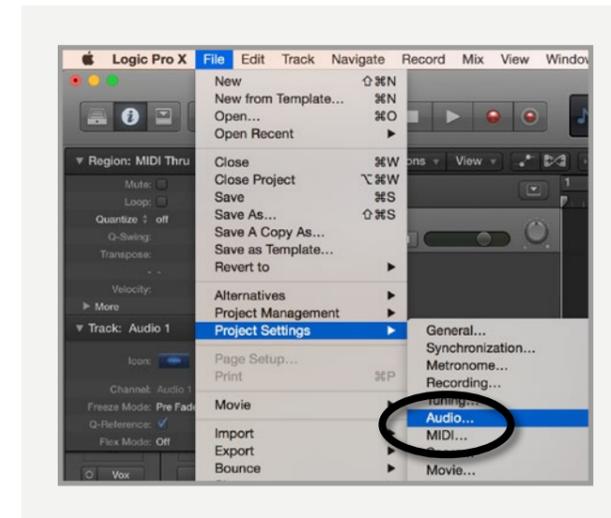
iD14mkIIの全入出力(10x入力、6x出力)は、Logicのルーティングから使用できます。それらの入出力はI/Oラベル機能で名前を付けることができます。



オペレーション

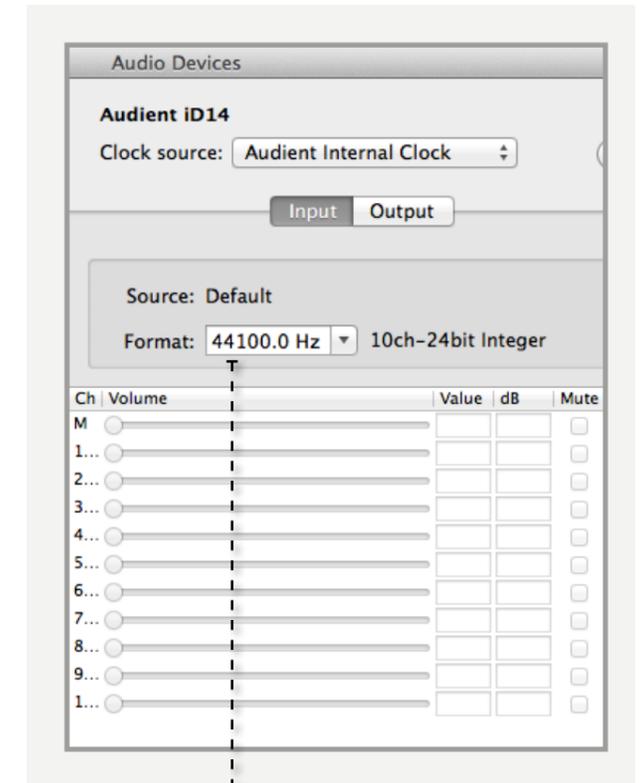
ADAT or S/PDIFからの外部クロックに iD14mkII を同期しているのであれば、レコーディングやプレイバックの信号がシャープしたりフラットしないように、Logic側を外部機と同じサンプルレートに設定してください。

File > Project Settings > Audio



iD14mkIIを内部クロックで動作している際は、LogicはiD14mkIIに従いサンプルレートを更新します。再同期まで短いポーズがありますが、それは正常な状態です。

Macintosh HD > アプリケーション > ユーティリティ



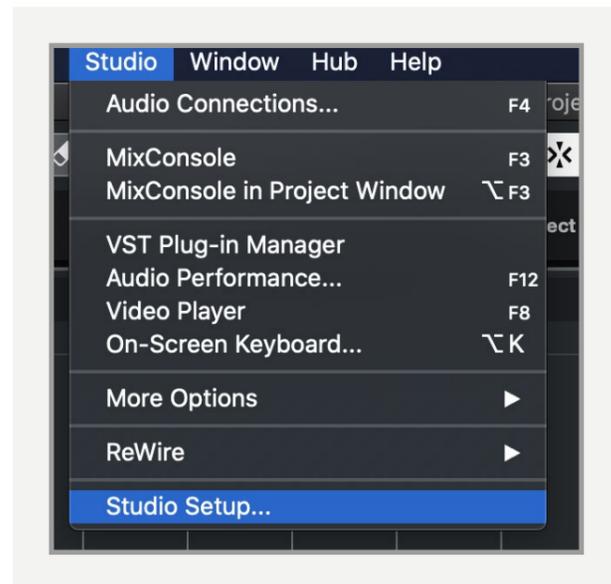
※その他の設定に関しては、Appleの取扱説明書等をご参照ください。

Cubase/Nuendoの設定

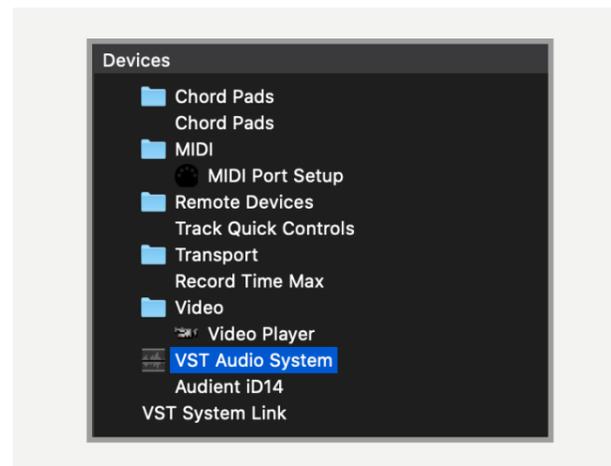
Cubase / Nuendoと使用する場合

Windowsを使用している方は、インストールセクション（オーディオデバイスとしての設定）の設定を確認してください。インストールが完了したら、Cubase or Nuendo を起動してデバイスメニューに入ります。

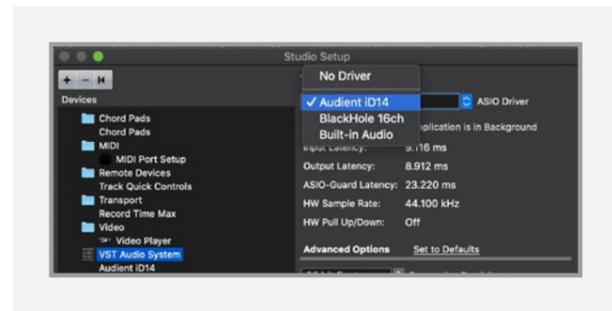
Studio > Studio Setup



図のようにデバイスメニューからVSTAudio Systemを選びます。



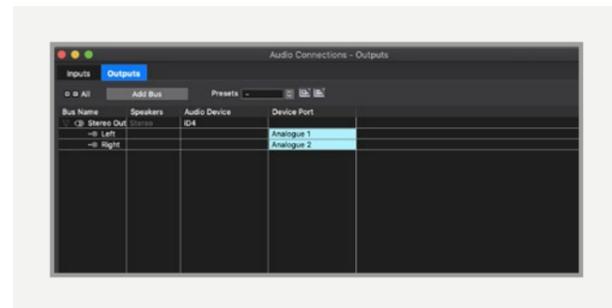
iD14mkIIがオーディオデバイスに選ばれていることを確認してください。「Switch」のメッセージをクリックしてください。



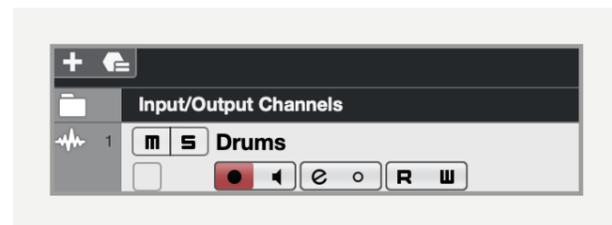
VSTデバイスセットアップパネルを閉じ、オーディオ接続パネルへ移ります。

Devices > Audio Connections (F4)

Cubase / Nuendo中に作られた全バスを確認してください。それら全てのポートはセッションで使用できます。必要であればそれらをI/Oに割り当ててください。



iD14mkIIのミキサーアプリで入力をモニターしているのであれば、トラックの入力モニターはオフになっていることを確認してください。

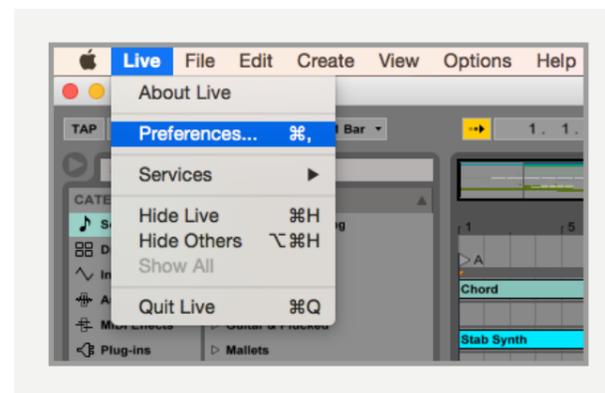


Ableton Live の設定

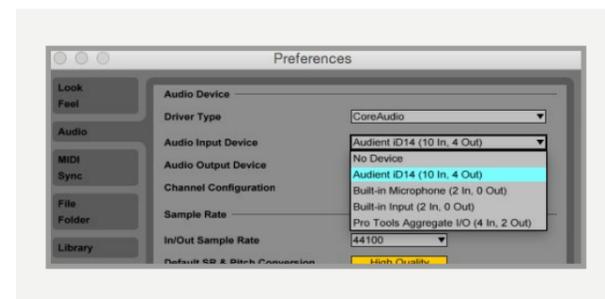
Ableton Liveと使用する場合

Windowsを使用している方は、インストールセクションの設定（オーディオデバイスとしての設定）を確認してください。インストールが完了したら、Ableton Liveを起動してデバイスメニューに入ります。

Live > Preferences > Audio

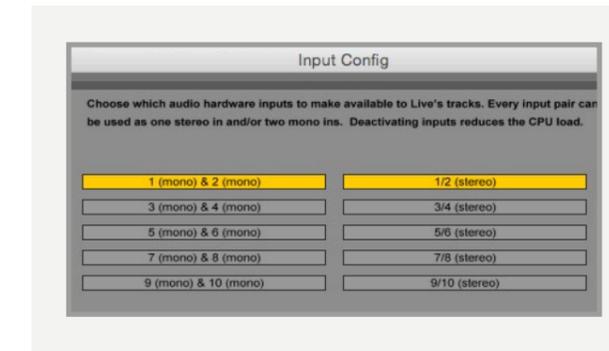
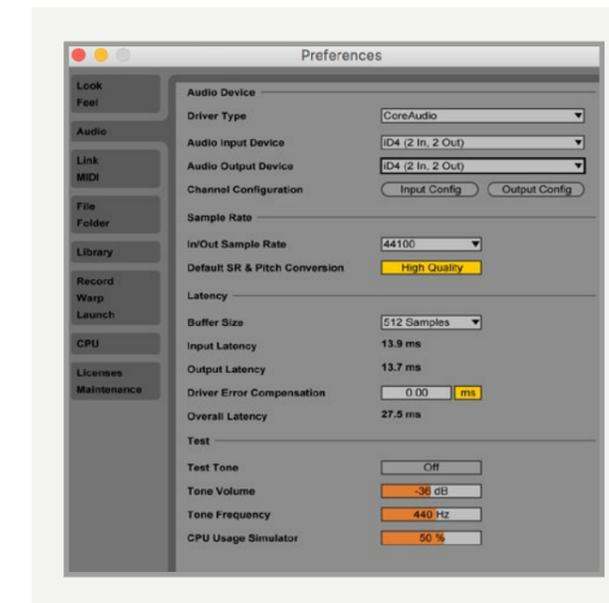


iD14mkIIがオーディオデバイスに選ばれていることを確認してください。又、適切なサンプルレートとバッファサイズも設定してください。



Windowsユーザーは、Ableton内で変更する前に、iD System Trayでバッファサイズとレイテンシーを設定します。（iD14mkIIは10-in、4-outデバイスとしてLiveに認識されていることを確認してください。）

iD Mixerで入力信号をモニターしている場合は、コンピューターの負荷を軽減するために、バッファサイズは比較的高く設定できます。このケースでは、Ableton側のトラックの入力モニタリングをオフにします。



トラブルシューティング & FAQ

トラブルシューティング

本機に電源が入らない。

USBケーブルが正しく接続されているか確認してください。お使いのPC/MACのUSB給電仕様や、USBハブや接続ポートを再確認してみてください。

DAWの再生時にクリックやポップノイズが出る。

まず、設定されているバッファサイズの値が小さすぎることが考えられます。又、使用しているプラグインやソフトシンセ等が多すぎること考えられます。レコーディング時は、レイテンシーを少なくするためにバッファサイズ小さく設定しがちですが、ミックス時はその必要はありません。

iD14mkIIをコンピューターに接続すると、本機からオーディオが再生できない。

まず、iD14mkIIとコンピューター間のUSBケーブル接続を再確認して下さい。さらに、iD14mkIIがDAWの再生デバイスに設定されているかの確認も必要です。

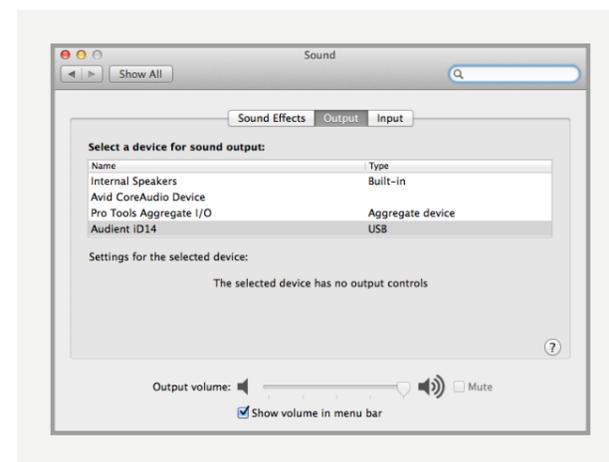
最後に、モニターミックスノブをDAWにセットします。

システム環境設定 > サウンド > 出力タブ > Audient iD14 (macOS)

コントロールパネル > ハードウェアとサウンド > サウンド > サウンドデバイスを管理する > Audient iD14 (Windows)

コンピューターとiD14mkIIのコミュニケーションのためにiD Mixerアプリを起動します。これは電源を入れた時に一度だけ行います。iD14mkIIが動作状態になったら、このアプリを終了してください。

ソフトウェアミキサーの中で、DAWビューボタンを押しDAWチャンネルを見つけ、DAW1+2フェーダーでレベルを上げます。



iD14mkIIが外部ADAT又はSPDIFと同期できない

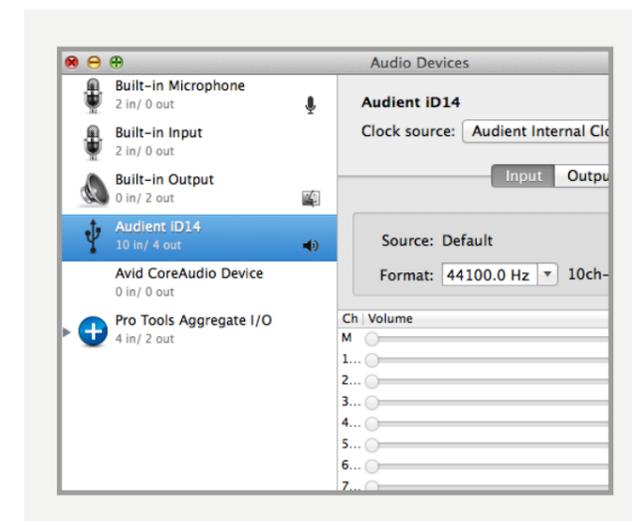
両機が同期していない時、ステータスLEDはレッドかイエローが点灯します。レッド点灯時は外部デバイスからのクロックが感知できない場合。イエロー点灯時はクロック信号は受けているが、サンプルレートが一致していない場合です。

OSXでサンプルレートを変更する場合は、Audio MIDIセットアップで行います。

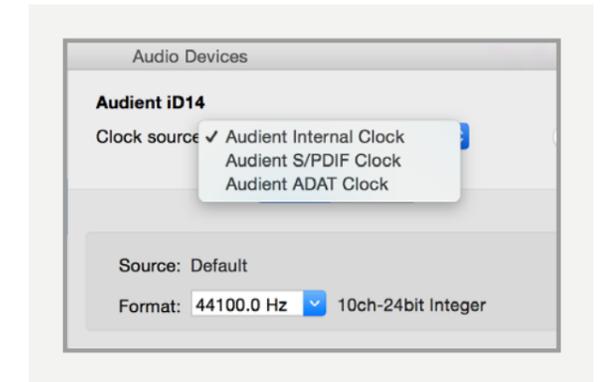
Macintosh HD > アプリケーション > ユーティリティ > Audio MIDI 設定

Audient iD14がオーディオデバイスとして認識されていることを確認してください。

ウィンドウ > オーディオウィンドウを表示



クロックソースを再確認してください。又、正しいサンプルレートが表示されているかも確認してください。



Windowsを使用されている場合は、システムトレイにあるiDアイコンを右クリックします。すると、サンプルレート等のセッティングが表示されます。それらの値はiDアプリのセットアップでも変更できます。外部のADATデバイスのサンプルレートも変更してください。



トラブルシューティング (続き)

iD Mixerアプリのデフォルト設定にリセットしたい

iD Mixerアプリのリセットは、iDアプリを完全に終了し、フォルダー内にあるstate.xmlを以下の手順でデリートします。再スタートは新しいアプリをインストールしなおしてください。

Macintosh HD > ライブラリ

> Application Support > Audient > iD
> state.xml

OS(C:)ドライブ > ユーザー > (ユーザー名)
> AppData > Roaming > Audient > iD
> state.xml

セーブしたiD Mixerプリセットが入ったフォルダーは、デリートしないでください。

iDのファームウェア/ソフトウェアの最新バージョンを入手したい

<http://audient.com/products/id14/downloads> から最新ドライバーをダウンロードしてインストールしてください。

FAQs

FAQについては
<http://www.allaccess.co.jp/audient/>
ページをご覧ください。

製品仕様



D.I /インストルメント入力

ゲインレンジ: 40dB
フルスケールレベル: 12dBu = 0dBFS
THD+N @ 0dBu: 0.1%
SNR: 100dBu (A-特性負荷)
周波数特性 - 最小ゲイン ±0.5dB 10Hz to 20kHz
1/4" TS ジャック: チップ (ホット)、スリーブ (シールド)

ADコンバーター

THD+N @ -1dBFS: 0.001%
ダイナミックレンジ: 120dB (A-特性負荷)
CORR: >80dB
周波数特性: ±0.5dB 10Hz to 40kHz

デジタル入力

8-チャンネル ADAT: 44.1kHz~48kHz
4-チャンネル ADAT: 88.2kHz~96kHz SMUX
STEREO S/PDIF / TOSLINK: 44.1kHz to 96.0kHz (Stereo)

ヘッドフォン出力 (100k負荷で測定)

フルスケールレベル: 18.5dBu = 0dBFS
THD+N @ -1dBFS: 0.0009%
ダイナミックレンジ: 125.5dB (A-特性負荷)
クロストーク: >116dB
周波数特性: ±0.25dB 10Hz to 40kHz
最大レベル @ 30Ω: 2.59V Peak, 1.827V RMS, 223mW
最大レベル @ 62Ω: 4.18V Peak, 2.95V RMS, 280mW
最大レベル @ 600Ω: 7.72V Peak, 5.46V RMS, 100mW
1/4" TRS ジャック: チップ (L)、リング (R)、スリーブ (シールド)

マイクロフォンプリアンプ

ゲインレンジ: 58dB
フルスケールレベル: 12dBu = 0dBFS
MIC 最大入力レベル: 12dBu
最大入力レベル: 21dBu
入力インピーダンス (Mic): 2.8k
入力インピーダンス (Line): >8k
THD+N @ 0dBu 0.00170%
THD+N @ 0dBu 最大ゲイン <0.04%
SNR: 101dBu (A-特性負荷)
EIN: 129dB (A-特性負荷)
CMRR @ 1k: >75dB
周波数特性 - 最小ゲイン ±0.5dB 10Hz to 40kHz
XLR COMBI FEMALE: Pin 2 (Hot)、Pin 3 (Cold) & Pin 1 (シールド)
1/4" TRS ジャック: チップ (Hot)、リング (Cold)、スリーブ (シールド)

ライン出力 (DAC)

フルスケールレベル: 12dBu = 0dBFS
THD+N @ -1dBFS: 0.0006%
ダイナミックレンジ: 125.5dB (A-特性負荷)
クロストーク: >120dB
周波数特性: ±0.1dB 10Hz to 40kHz
1/4" TRS ジャック: チップ (L)、リング (R)、スリーブ (シールド)

USB-C ハイスピード

バスパワー:
最低位スペック: 0.9A @ 5V >=USB 3.0 Port
最高位スペック: 1.5A @ 5V
入力チャンネル数: 2 (2 アナログ)
出力チャンネル数: 2 (2 アナログ)
DSP ミキサーレイテンシー:
44.1kHz 0.65mS
48.0kHz 0.6mS
88.2kHz 0.33mS
96.0kHz 0.31mS

品質保証に関して

本機は、audient日本総代理店 オールアクセスインターナショナル株式会社が、購入後1年以内の品質保証を行っております。修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼下さい。保証書の提示が無い場合、保証内であっても1年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲警告:安全のため、特に注意していただくこと

1. 異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡下さい。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
2. 電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないで下さい。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼下さい。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けて下さい。

▲警告:次のような場所での使用はできる限り避けて下さい。

- 湿度の非常に高い場所
- 砂やほこりが多い場所
- 台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所
- 空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くや温度が高い場所

■取り扱いについて乾いた柔らかい布のみを使用して、外装をきれいに保ちましょう。

■サービスについて このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いは行わないで下さい。記載外の使用方法で本機を使用されますと製品不良が発生する場合があります。必ず本書に基づいた使用方法で使用して下さい。

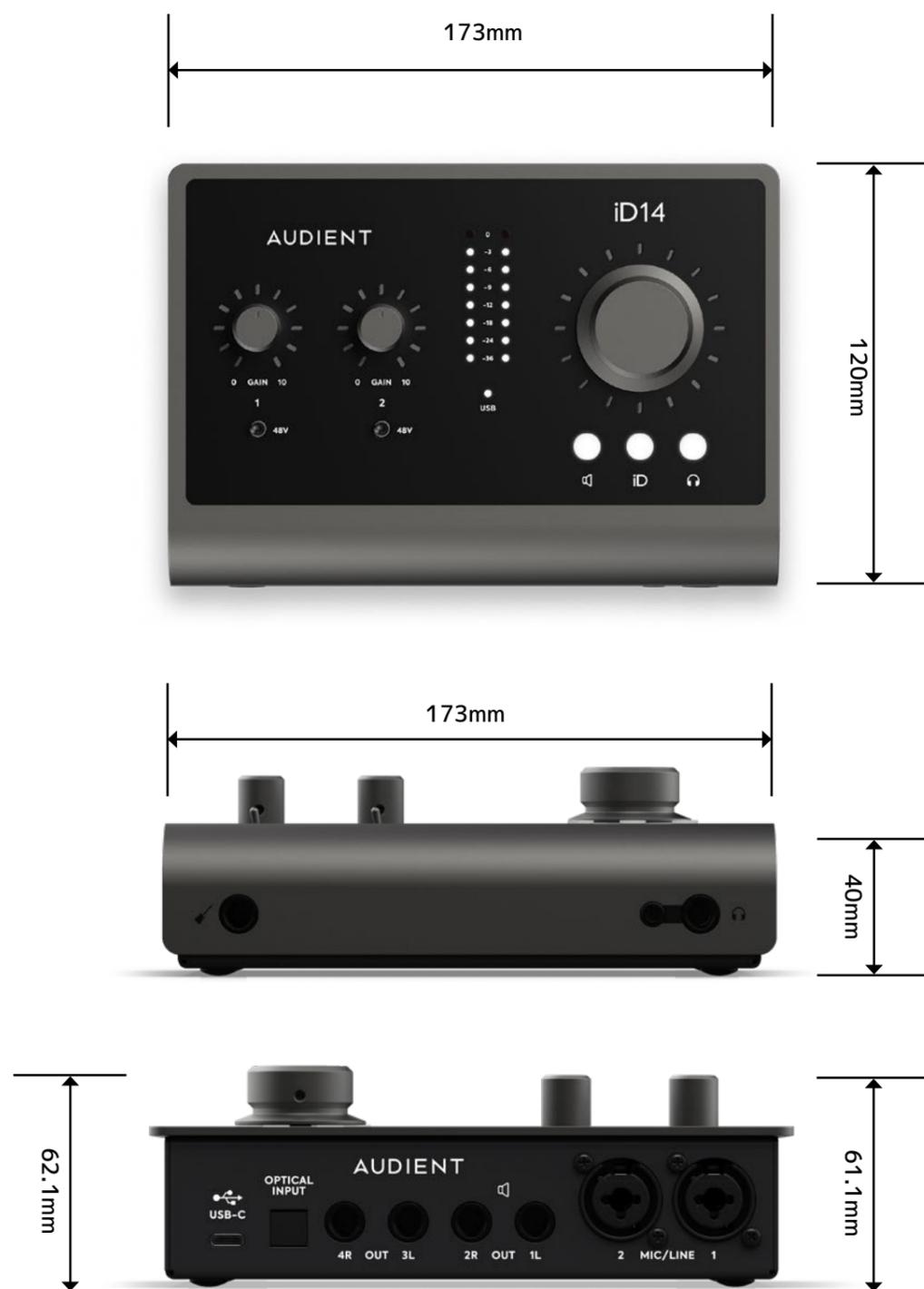
記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取り扱いは慎重に行ってください。万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、購入先もしくは弊社へ（メールのみの対応です。）ご連絡下さい。

Web : www.allaccess.co.jp

Mail : audient@allaccess.co.jp

サイズ



AUDIENT

audient 日本輸入総代理店
オールアクセスインターナショナル株式会社
WEB: www.allaccess.co.jp/audient/
E-mail: audient@allaccess.co.jp
〒490-1116 愛知県あま市本郷三反地21番地